



七色のかがやき

長崎市立虹が丘小学校 学校便りNo.9

令和7年 10月 1日(水)

編集・発行責任者 校長 池田敏典

E-mail e52@nagasaki-city.ed.jp

G-mail nijigaoka@gmail.com

季節の変わり目に注意

一年の半分を過ぎ、10月に入りました。今年は夏の酷暑、そして、厳しい残暑でしたが、ようやく朝晩の涼しさが感じられるようになり、涼風にゆれる彼岸花に秋の風情が増してきたところです。



さて、2学期スタートの9月は、6年生は修学旅行や小体会の練習開始、他学年においても社会科見学など、慌ただしい日々でしたが、今月も体験学習、小体会選手を励ます会、小体会、宿泊学習、社会科見学、図書集会…と、忙しい月になりそうです。一つ一つの取組は子どもたちにとって成長の機会となるわけですが、一つの取組を終えた時こそ、子どもたちの心の乱れに気を付けていかなければと思うところです。朝晩と昼間の気温差で体調を崩しがちな時季でもあります。御家庭でも、心の面と合わせて御留意いただきますようお願いいたします。

どんな《鏡》を持っていますか

～子どもたちに伝えたいこと

私たちは、周りからいろいろ言われることが嫌で、「ほっといてよ。自分のことは自分が一番よく分かってるんだから。」なんて思うことがありますね。

でも、本当にそうでしょうか。たいていの人は、自分のことを買いかぶったり、うぬぼれたり、或いは、自信が無くて「自分はだめだ」と思い込んでしまったりしている人が多いのではないのでしょうか。

私たちが自分のことを知るのには、周りの人たちが自分のことをどう見てくれているかというところからではないかと思う時があります。それがすべてとは言いきれませんが、少なくとも自分自身を知る一つ

の手がかりとなっていることには違いないと思います。

たとえば、私が「私はとっても優しい人間だ」と思っていたとしても、周りの人たちがそのように感じていなければ、「校長先生は優しい人」とはなりません。私の性格と言いますか、人柄というのは、私の周りの人たちが感じてくれるものという考え方もできるわけです。

ですから、《自分の人柄は、周りの人たちという〈鏡〉に映った自分の姿》だとも言えるのです。

さらに、人間は弱いもので、自分のことをよく思ってくれる人たちといれば心が安まりますから、ついつい、同じような感じの仲間とだけ付き合いがちです。でも、それでは、自分に足りない面が見えにくくなります。油断すると、ついくいい気になってしまいがちです。

世の中には、自分の態度や言動を快く思わない人たちがっています。そうした人たちは、自分にとって言われたくないことを隠さずに言ってくれます。いわゆる『苦言』ですが、とっても嫌なものです。それでも、苦言を聞かされることは、いい気になっていた自分をしっかりと見つめ直すための大切なものとなります。

人は、相手の心の中まではのぞけません。だから、その人の表にあらわれた態度や言動で、その人がどういう人かを判断します。

常に、周りの人たちに映し出された自分の姿を振り返り、自分の態度や言動を正していくよう努力していきたいものです。

以上、お子様と一緒に読んでいただきますと幸いです。

ドーパミンに振り回されない！

SNSなどで短い動画を見続けて

しまう人が少なくないようです。冒頭



で興味を引かれ、短時間でオチを迎えるため、ドーパミン分泌が連続的に起こるからだそうです。内容は大したこと無くとも際限なく見てしまうというのは困りものです。秋の夜長、SNSはほどほどに、御家族で心静かに読書にふけるのはいかがでしょう。